

○国・県基準について

- ・全国で複式学級を行っている学校は何校あるか。
- ・1学年2~3学級を基準とする根拠はあるのか。

○6つのパターンについて

- ・分校について、1~2年生と3~6年に分ける分校の考え方もある。

○教育について

- ・ICT機器の使われ方。他市町村ではオンラインで他校と繋ぎ交流をしていた。複式学級になったときに、こうしたオンラインの学習や交流が課題解消となる可能性はあるか。

○地域対話について

- ・保護者対象の地域対話では、参加者の属性（子の学年）がわかるか。

○今後の進め方について

- ・今年度、どのようにまとめていくのか進め方について教えてほしい。
- ・これから先、子供が学校に通う人と、中学校を卒業する人との意見が違うのでは。属性によって意見の偏りがあるかもしれない、子の属性をわかるようにしてほしい。
- ・意見を聞いた後、どのようにまとめていくのか。その後、再度対話があるのか。学校教育課だけで案を作るのか。

○その他

- ・問題を起きないようにするのが教員や教育である。複数の学級があることで、問題が起きないということではなく、問題を防ぐような教育にするという考え方ではないのか。

○ 6つのパターンについて

- ・金沢地区の中学生はバス通学なので、永明小中にも通うことができる。通学区の再編はあってよいのでは。
- ・人口減少なので、近い将来に統廃合をしなければならない時期が来る。例えば金沢と宮川が統合した場合、今の宮川小の立地は建て替えには適地ではない。丸山・金沢の水田がよいのではないかと思う。
- ・学園構想（義務教育学校）という考え方はあるか。
- ・義務教育学校の増加率が高いと思うが。
- ・教育の組み方。小学校の低学年は分けて、高学年は統合するという学園構想があってもよい。宮川は丸山や田沢の分校があった。そのような分校があってもよい。
- ・小規模特認校制度だと男女比の偏りが解消できなくて、学校の再編だと男女比の偏りが解消できるというのは、どういうことか。根拠はなにか。
- ・6つのパターンをもとに考えていくのか。パターンを出すとこの中から選ぶことにならないか。
- ・宮川小学校のトイレ徐々にきれいになっている。宮川小学校の建て替えがされない場合は、通学区の見直しを市が主導をして進めてほしい。
- ・将来構想として、永明小学校中学校に児童生徒を集めていくという考え方ができるのではないか。最低限どれくらい学校数を減らしていくのか。
- ・移住促進からすると9校維持という考え方もあると思うが、将来的には2~3校と考えられるのではないか。
- ・宮川小学校の建て替えは無理との話がある。1日も早くリノベーションをして子供たちにとっていい環境の中で学習をしてほしい。改修はいつになったら始まるのか。

○ 地域対話について

- ・保護者が少ない。保護者の危機感が足りない。保護者の意見を聞く場として、参観日などと抱き合わせるなど、日時や場所を検討してほしい。

○ 今後の進め方について

- ・地域対話を進めている2年間は、学校施設の不具合の部分について改修をすすめないのか。
- ・こんな学校があったらいい等希望を言う機会はあるのか。茅野市に合う学校があればよいと思う。
- ・10地区終わった後、地域対話の2回目をやるのか。できれば、小規模学校の地域の人がどのように考えているのか知りたい。
- ・どのくらいの期間で実行することを想定しているのか知りたい。
- ・方向付けが決まり校舎を建て替えた場合には、子ども達が新しい学校で学べるようになるようにどれくらいかかるとみているのか。

○ 財政について

- ・建て替えの場合は市の財政に大きく影響するが、9校維持し運営することだけを考えた場合は財政上大きな負担にならないという見解でよいのか。
- ・改修・建て替えの試算はできているのか
- ・統合した場合に出る補助金は来年で終わるか。
- ・茅野市の財政的に9校維持できるのか。行政的な判断はどのようにするのか。

## ○その他

- ・永明小学校はどのような規模を想定しているのか。また、現在の状況を教えてほしい。
- ・宮川小学校の老朽化が進んでいる。6年女子トイレ使えない。使えるようにしてほしい。
- ・財政的に厳しいという話は一昨年くらいから。今の市長が財政危機に陥れたことに対し反省がなく、公共施設をなくしたり使用料を上げたりするのはおかしい。
- ・財政が傾いているという話があった。市民にはわかりづらい。茅野市の将来の子供に対する教育の在り方どのような姿がよいのかというのを市民の意見をしっかり聞いてほしい。
- ・どんぐりネットワークから市へ提言があったと思う。①9校を残す②再編をするのであれば、0からのスタートで現在の小学校の名前を残さない。知っているか。
- ・どんぐりネットワークの組織をどのように考えているのか。市教委が作ったものではないのか。
- ・学校は避難所の指定になっているが、その観点から検討されているのか。
- ・他の小学校区で出た意見を共有してほしい。

○ 6つのパターンについて

- ・男女をきっちりと分けることをしない時代になっているので、男女比は気にしなくてもよいのではないか。小学校9校に対し中学校は4校しかないので、中学校に進学する際に環境が大きく変わる。中学生は年齢的にも、大人と子供の間の敏感な年齢になるので、出身校の人数の比というところも気にかけてほしい。大人だけでなく、子供の意見も聞いてほしい。
- ・複式学級は、学年が続いている場合（1年と2年、2年と3年）が8人以下になったときに編成されるのか。
- ・通学距離が遠くなる場合、スクールバスの使える範囲はあるのか。夏は対応するが、冬は対応しないというとか。

○ 地域対話について

- ・米沢小学校の人数が減っていると感じていた。ただ、5人の学校が出てくるということに驚いた。参加人数が少ないので、情報発信不足。もっと小さい単位で開催を考えてほしい。児童数の減少と財政面の課題どちらを主に考えて意見を聞きたいと思っているのか。子供のことを一番に考えて進めてほしい。

○ 今後の進め方について

- ・参加人数が少ないところで話をしても、意見が出ない。保育園や小中学校の参観日や講演会などと抱き合わせて説明をしに来てほしい。

○ 教育について

- ・教育大綱や繩文のビーナスプランは、児童数が減少する学級数を考慮して考えられた方針なのか。学年5人でも、育てる力をつけられるのではないか。泉野地区では小規模特認校制度の要望があったが、地域によって考え方の差を大事にしてほしい。

○ その他

- ・各小学校の耐震化はすべて終わっているのか。修繕等手を入れていけば10~15年くらいは校舎を維持できるので、9校維持できると考えられるか。
- ・一度茅野市を転出した学生が、茅野市に戻ってくる人数をとったことがあるか。調べられないのか。

○学校再編について

- ・学校再編の検討目的は、財政からの観点なのか教育環境に対する配慮という観点なのかによって選ぶパターンが変わってくるのではないか。不登校が大きな問題となっているが、学校施設を変えることで問題解決になるとは思わない。
- ・児童数増加を目指しての再編だと思うが、子供に対するヒアリングはしているのか。子供の声が反映された学校づくりがされたら良い。
- ・子どもに最適な学びは何かということで進めているが、全体最適で考えることが必要で、地域対話の先に全体最適が見えてくると思っている。今後のスケジュール感はないということでしょうか。
- ・諏訪市 通学区の見直しも含めて検討を進めているが、再編に数年かかっている。9校をどのような方法で残したら良いのか、集約したほうが良いのか。場所によってすべて同じ方法でなく、より多くの意見を聞いて時間をかけてほしい。

○6つパターン

- ・小規模特認校制度の視察 そこに学校を残さざるを得なかった理由は。地区の想いがあれば茅野市でも残せるものか。

○地域との関わりについて

- ・本日の資料はやり方の情報である。市民とは大きな方向性を考えるべきではないか。旧町村にあった9校を残すが前提で、この地域の学校をどう考えているか、学校を変えていくことをどう考えるかを議論していくことが大事なのでは。地域の価値をどう作るのかという部分を考える。6つのパターンが誘導的に感じる。地域の価値を議論に挙げてほしい。
- ・茅野市として街の形をかえていくという部分が欠けている。

○財政について

- ・財政について、今年度300億円の予算。元年に比べ予算額が多くなってきているので、収入も併せて増えているのでは。必要に応じ、財政的な資料を出してほしい。財政難なのに、プールは何故無償譲渡なのか。ベルビア改修に何故1億8千万円かけるのか。予算との関わりをわかりやすく示してほしい。
- ・基金や借り入れをしなければならないほど、予算額を上げないといけないのか。借り入れはできるし、市長の正月インタビューでも収入が増えていると聞いたので、財政難といわれるのかが分からぬ。
- ・広報ちの7月号 基金残高が22億から47億になっている。地方債は発行しないと予算が組めないが、財政措置があるので、全額市が保証するわけではなく、地方交付税もかかってくる。茅野市の財政はそんなに危機感がある状況ではない。バランスシートを見る中で、借金ばかり見るだけでなく、資産も見ながら管理していく必要がある。仮完済という方法もあり、長寿命化するなら補助金が出ることが分かっているので、残すなら計画的に検討する必要がある。

○防災について

- ・人口減少について、国や自治体も人口減少政策を進め移住も促進していくことを考えると、推計で出している減少幅より緩やかになると思うので、学校は存続をしていくのがよいと思う。防災について、小学校は指定避難所になっている。要支援者・支援する側にとっては近くの指定避難所が無くなるのは大変不安なこと。

- ・要支援者・支援者が地域防災の拠点がなくなるのはやはり困るので、無くならないと言ってもらえたなら安心する。

#### ○その他

- ・第6次総合計画では人口55,000人維持を目標としているが、児童数減少の推移がでているが、どのように検討しているのか。6次総合計画に統廃合の話が計画に入っていない点については別の考え方を持っているのか。
- ・豊平小が小中一貫校になっているが、違う中学校に通うのに、小中一貫校に指定されているのか。
- ・笹原保育園が認定こども園ささらになったあと、園児が増えた。そのような保育園や繋がる小学校があれば児童数が増えるのではないかと思う。
- ・学校を子供や地域のためにどのように形にしていくのか。地域コミュニティや財政もあるので、そのための地域対話と理解して本日は話をきいた。

○学校再編について

- ・今後のスケジュールはいつだれがどのように決めていくのか。今回の資料から令和 13 年度に泉野小学校が複式学級になるということか。複式学級は避けたいとのことで、令和 13 年度には泉野小学校は統合されて無くなってしまうのか。
- ・市職員には、国が示す政策を変えるくらいの熱量を持ってやってほしい。行財政審議会では 3 月に素案を公表としているが、目標としているスケジュールなのか。「泉野小学校の統廃合を考える会」から提言書の報告と市からの回答の紹介。提言書は 1 個個人の意見と同じ、1 つの意見としてしか扱われないのか。提言書を提出した際に、取材を拒否したのはなぜか。地区の総意とは何をもって総意と受け取ってもらえるのか。地域とのかかわり方と併せて検討をしていくとのことだが、学校教育課しか出席していないのはなぜか。教員の参加も含めた協議の場を進めてほしい。
- ・総意について、市の回答に補足したい。保護者アンケートで再編したほうが良い・やむを得ないが 51% 出ている中で、反対意見が総意とするには難しいと思う。人口増加についても行政に案を出してもらうだけでなく、自分たちで泉野の魅力を考え市などへ発信することが必要である。人口減少になると税負担が多くなる。小学校が 9 校あるのは今の最善を考えられた数ではない。
- ・皆さんに聞きたいことがある。小学校が無くなると泉野地区がなくなると考えているが、どうか。地域の人が子どもと関わなくなってしまう。また、小学校がない地区に若い人が戻ってきて地区を支えてくれるか心配である。
- ・泉野小学校が無くなってしまってもよいかと子どもに聞いたところ嫌だと言ったことも大きい。子ども達が結婚できる年になったときに、自分が地域の子達を支えたいと思うし、地域が支えてくれている地区だと思っている。
- ・子どもの目線で考えてほしい。通学バスで通うことは時間に制約され可哀そう。泉野小学校では異学年と放課後遊ぶ姿を見かける。大人が元気をもらう。複式学級でも子ども達が元気に通えれば良いのではないかと考えている。
- ・児童数だけで結論を出さないでほしい。子ども達が幸せに通うためには何が必要かを考えてほしい。子どもの為なら大人が負担してもいいと思っている。泉野地区は昔からみんなで子どもを育てる気質がある地域である。どのような形でもこの地で子ども達を育てていけるようにしてほしい。
- ・初めて統廃合の話が出てきたときに、財政的に厳しいからという理由だったと思う。教育は未来への投資であると言われることが多いが、未来への投資を断ち切るような違和感を覚えた。資産を最大限に生かした試行錯誤しながら学校運営ができるようになれば良い。
- ・泉野小学校は、小規模特認校で残してほしい。学校が無くなると地域が無くなると考えている。他の地域でも事例がある。なぜそんなに複式学級を避けたいのか。他県では、複式学級でもスクールバスを使って違う学校に行って授業を受ける工夫をしているところもある。
- ・海外に住んでいて毎年体験入学をさせてもらっている。フランスに住んでいるが、子どもが複式学級に受けていて、デメリットをメリットに変えられるので、非常にいいと思っている。複式学級を避けたいという考え方をもう一度考えてほしい。

○人数について

- ・ロングモント市では人口が 30 年で倍になった。その理由が教育に力を入れたとのこと。茅野市でももっとやれることがあるのではないか。資料からは、人口減少に伴い、いかにダウンサイズしたらよいかという感じがする。どうやったら人口が増えるかという政策を示してほしい。

## ○財政について

- ・財政について、統廃合されたときに、どれくらい削減されるのか。泉野小学校の運営費は 2000 万円で、茅野市の予算の 0.07% にあたる。費用対効果を考えると地域の文化が無くなるのはもったいないのではないか。
- ・危機感を感じながら対話を始めてくれたことに感謝している。地域の方が娘たちにかかわり育てできることに感謝している。懸念していることは、全部の建て替え費用を娘たちの代が背負っていくことが心苦しい。娘たちの代に負担をかけないように統廃合ができたらと思う。地域の方の居場所と子ども達が学べる場所が一緒になるような場所があつたらいいと思う。茅野市の中にそれぞれのコミュニティがたくさんできたらよいと思う。

## ○まちづくりについて

- ・大日影は豊平小学校に通っているが、大日影は泉野なのかといわれることもある。泉野小学校以外の学校に通うようになったら、同じ泉野地区の人を知らない子ども達が増えて地区の団結ができなくなることが心配される。高校行くと多くの友人に会えるので、地域つながりのために泉野小学校を残してほしい。
- ・泉野小学校を残していき、活気ある泉野を残していきたいと思っている。活気ある泉野を次の世代へバトンを渡していきたい。

## ○その他

- ・会でも、いろいろな意見を聞いていきたいと考えている。大きい学校に通いたい人もいることは承知しており、その人たちが選択できることを考えている。月 1 回考える会を開いているので、来て一緒に考えてほしい。
- ・考える会には保育園や小学校の保護者の方もいる。考える会のスタンスは、どのように話が進んでも、子ども達を中心はどうしたらよいか色々なことを考えることからスタートして、会以外の方も色々な人の意見を聞きたいと考えている。なぜ大人数の学校通わせたいのか、なぜ小規模の学校に通わせたいのか意見を出してほしい。デメリットをどうしたらメリットに変えられるのかをもっと考えていきたい。小学校がある泉野の人口が減っているのは、他の理由があるかもしれないし、そこを泉野の人と話していきたい。応援隊・遊び隊などを結成して子ども達を応援している大人がいる。再編を進めるなら、小学校全部廃校にして、全部新しい学校を作ることを提案したい。

#### ○学校の再編について

- ・大規模学校になっても、小規模のメリットを生かせる学校がよい。例えば、規模が大きい学校でも一クラスが二十数名といった仕組み。教育関連施設から節約しているように見えてしまっているが、300億の予算に対して教育費は12%（約36億円）。将来の教育費について、予算に対して12%の維持ではなく、36億といった金額の維持をしてほしい。
- ・玉川地区のコミュニティ運営協議会や子育て部会の人が参加していないのが残念。今の9小学校ができた過程は地域が中心となって成り立っているが、子育てプランでは中学校区ごとコミュニティスクールを作るようになっているので、中学校区で小学校の統合を考えて、新しい小学校に複数の地域がかかわり、学校を支える形でもよいのではないか。地域には学校が必要だという地域には分校・小規模特認校を使っていくことも考える。一方、茅野市の施設として、小学校9校必要なのか、設備の老朽化の問題もあるので、施設の複合化も考えられる。そのあたりの意見をまとめてほしい。
- ・これからスケジュールについて教えてほしい。
- ・設置条件はあるのか。小学校を建てる決定権はどこにあるのか。条例を茅野市が出すのか。逆に廃校も茅野市が議会に提出して決める手続きが必要か。学級についても条例を改正するのか。複式学級を組む児童数の確認をしたい。6パターンの中で議会に出さないといけないものはあるか。6つのパターン等を取り入れそこに学校を残しながら、検討を重ねていくこともできるのではないか。

#### ○地域対話について

- ・6つのパターンについて対話をしていくのか。話題が他の内容でもよいのか。
- ・保護者対象の地域対話の参加状況が少ない。保護者に危機感がない。この人数では対話を重ねたとは言えない。素案などが出て、地区のアイデンティティーがなくなるといったときに、地域の人もようやく危機感を持ってくると思っているが、そうではなく今から関心を持ってほしい。人と金が減るのはわかっていることなので、どこまで譲歩できるか。
- ・保護者の人数は少ないとと思った。保護者と対話をするのに、現在の中小学生の保護者が対象でよいのか。保育園・子供を生んでこれから子育てする保護者やこれから保護者になっていく若者たちの考えも取り入れていくことが必要なのではないか。小さい子を育てている保護者には乳幼児健診や、若者には成人式などで丁寧に伝え、意見を集めてほしい。職員室が一緒になったところのメリット・デメリットを子供たちにも意見を聞いて、それが市民に周知されることで、統合の判断材料になる。

#### ○6つのパターンについて

- ・学校再編について。落合小学校の全児童が富士見小学校に通っているということなのか、境小学校も富士見小学校に統合されたということなのか。
- ・小規模特認校制度は、元々の特認校がある学区の子が違う学校に行きたいという希望があったときは違う学校に行けるのか。いじめ・不登校の子がいた場合、一クラスしかない・他の学校に行くことができないとなると逃げ道がないのは問題ではないか。小さい学校でも大きい学校に行ける制度があってもよい。学校を選択できる制度を導入した場合に、複式学級にならないといわれていた学校が複式学級になってしまうことも考えられるので、慎重に審議してほしい。

○人数について

- ・1 クラス 20 人にはすることは可能か。

○その他

- ・先生の意見聞いてみたい。学校生活は生徒と先生が作っていくところなので、現場の課題や意見も知りたい。
- ・保護者対象の地域対話でも出てきた内容だが、永明小学校中学校を建てる前に、なぜ今回の検討がされなかつたかを説明してほしい。決定されたときの議事録を情報公開してもらえるか。
- ・人口推移について、減っていく前提。現状維持または増えていけばいい。市も更に働きやすい地域・街に邁進してほしい。

○再編について

- ・国が示す学校規模を下回る学校が茅野市では5学校ある。基準以下だからということで、国から指導があるのか。県内でも基準を下回る学校があると思うが、なぜ基準に従って統合しないのか。県内にはどれくらい基準を下回る学校が何校あるか、またその理由がわかるデータがあるか。地域の実態その他により特別な事情とは、「小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいとした上で、学校が地域コミュニティの存続に徹底的な役割を果たしていると考える市町村の判断も尊重される」と手引きに書いてあるが間違っているか。
- ・素案検討委員会で、学校の望ましい規模が出てきたが、今は考えていないということか。地域が小学校ではなくてはならないと意向を示せば、十分に考えてくれるのか。この問題は市側から出してきた。保護者対象アンケートも財政が厳しい・子どもの人数が減るという情報だけで大いに誘導があったと感じる。ここで、市民の意見を聞いたうえで、できるだけ沿ったものにすると言つてもらいたいわないと地域が大騒ぎになっている。
- ・ゼロに近いような子供の人数になつたら再編をせざるをえないと思うが、目安が何人かわからない。10年20年先には建て替えにも小さな学校で済むかもしれないし、もう少し経つてから考えたらよい。財政的に厳しいというが、義務教育なので、国が費用負担をしているし、学校は財政難にはあまり関係の内容に思う。
- ・市に対して意見なりあると思うが、子ども達の未来に対してどうするべきかという話し合いをするために来ている。この段階で、市が答えなければいけないという内容ではない。子どもの数が減少するからどうするのかという話し合いが先ではないか。献身的に話し合いをしてほしい。
- ・市は市民に対する説明ができていない。なぜ、教育に財政難が出てくるのか分からぬ。大規模校の出席率をみると、一生懸命になって考えているか疑問。子ども達の教育の場を一生懸命考えて、ここにみんな集まっている。
- ・金沢としては、子ども達のために学校は必要。非認知能力は幼児期から小学校低学年くらいまでに形成される。金沢は、子どもに対する教育の支援を惜しまない地区。多様性や個別最適となると、小規模のほうが優位である。金沢みたいな、地域文化を学べる機会があるのに、均一の教育にしなければならないのかと、多様性に逆行しているように思う。
- ・学校のあり方について茅野市全体で考えていく話だと思う。どの地域でも同じ人数が集まって同じ議論ができる体制づくりを市では行ってほしい。
- ・永明小学校が新しくなったが、大きな受け皿になるはず。そこに色々整えて、例えば米沢を統合して、統合のいい事例を作るということはどうか。
- ・小さいけどよそには負けないという存在感や協力が強い地域。しかし、金沢は他の地域と離れていて、どこの地域ともつながっていないので、統合したらバスや電車で通うのかという問題がある。全部の学校を廃校にして組み換えをして、特色のある学校にして、茅野市の教育体制の再編をしていくことが望ましいと思う。人数とお金だけで簡単には考えてほしくない。
- ・財政の問題から、学校の再編という問題が降って湧いたのが腑に落ちないでいたが、ゼロベースに戻してもらったのはよいと思う。ただ、今回の資料で欠けている点は、方法論を出してしまい、茅野市の子ども達をこれからどのように育てどのような子になってほしいのか、各地区・家庭でどのような子に成長してほしいので学校はこうあるべきではないかという、子どものことをないがしろにしている部分が消化しきれていない。今回学校のあり方を考えるにあたって、茅野市を担う子どもたちのことを改めて考える必要がある。

○6つのパターンについて

- ・小規模特認校制度。スケート学習、金鶴グリーンデイ特色のある事業を行い、地域の魅力ある学習できる場を

作り子どもを集めることができるのでないかと思う。

- ・いじめの話があったが、大きな学校ほどいじめられた時の逃げ場がない。小さい時から一緒にいるのでみんな分かっていて優しい。大人数の学校にいるが小規模がいいという子がいれば金沢に来てもらうほうがいいのではないか。
- ・人口減という観点でみれば、金沢小学校だけで維持するのは難しいと思うが、近所の高学年の子と一緒に登校するのはいい姿である。他の学年の子の名前を言えたり、地域の行事がたくさんあったりまとまりがある学校を維持する方向で、早い段階で色々な事案を取り入れながら試してほしい。目に見える形で進めてくれば、若い世代や保護者の話題にも増えていくと思う。

#### ○まちづくりについて

- ・長峰中学校の中でリーダーシップをとる子が多いと運営協議会の中で出てきた。今の子どもたちや若者が自己肯定感低くなっていると聞いているが、のびのびと学べている地域としての特性がプラスになっている。小学校が廃校になると、地域の衰退が加速度的に衰退していく。

#### ○今後の進め方について

- ・地域対話で出た色々な意見をどのようにまとめていくのか。まとめる体制は考えているか。タイムスケジュールはどう構築していくのか。公表後にさらに説明会が開かれるということか。
- ・今後のスケジュールを見ていると、拙速に唐突に結論を出そうとしている。仮に3月に素案を出したとして、きちんと議論をしたといえるのか、地域の合意形成を得たといえるのか。他の話題になるが、スケートセンターや温泉の廃止など形だけの議論が多くビジョンがない。茅野市の教育ビジョンをきちんと出してほしい。仮に統合をしたとしても、地域活力が失われるの明瞭かで、市と地域が地域振興をどうするのかという議論に展開しなくてはならないと思う。

#### ○その他

- ・素案検討委員会の委員構成がひどかったので、次回委員には、地域の代表が4~5名、保護者2名、現役か退職した校長経験者が入って方がよい。有識者。どんぐりネットワークの人は教育に関して勉強しているので入れてほしい。実情に合ったものを配慮してほしい。

#### ○学校再編について

- ・保護者対象の地域対話の中で統合する意見に対して、反対意見があったか。市の基本的な考え方は、存続なのか、再編していくことなのか。小規模の学校を残していくためにはどのような条件があるという検討は進めているのか。財政的に、建て替えができないというが、10~15年くらいは施設としては維持できると思う。財政的な資料が欲しい。
- ・生産人口も減っている中で、地域の子ども達が学ぶ環境について大人が考えなくてはいけない。子供たちの中で人間力（人気者）の価値観が変わってきており、コミュニケーション能力が高い者を望むようになっている。色々な子や地域の人と関わりの中で、コミュニケーション能力を育むのが大事になると感じている。6パターンの中で、できるものから進めていくこともよいのではないか。
- ・茅野市は地域により環境・学校との関りが違っていて、温度差がある。地域ごとに教育環境を考えていけばよいのではないか。参加者が少なくて残念。多くの意見をどのように市はまとめていくのか懸念している。
- ・茅野市の中で学校によって様々なパターンがあつていいと思う。移住者の目線では選べるのが理想である。建て替え費用について、茅野市は立派な施設が多いと感じる。子どもは何もない中でも考えられる力があるので、何もないけど自分たちで考えて作るのはわくわくする。新たな学校を生み出すわくわくするような地域対話になれば良いと思う。子どもにも意見を聞くのは、聞き方が難しいが、ぽろっと言ったことが本音になると思うので、その本音を拾えたら良いと思う。カリキュラムも柔軟にできたらよいと思う。
- ・通学区の見直しを許可した際に、小規模学校がさらに小規模になる可能性がある。自分が住んでいる地区は3つの小学校に分かれてしまうので、同じ小学校に通えるようになったらと思う。
- ・統合の後、子供たちや保護者の今の思いを把握しているか。当時の保護者は何で統合を望んだか。

#### ○地域との関りについて

- ・複数の学校に通うことになる地区で、地区の一体感について地域がどのように考えているか。小学校の中で、学年10人以下となる保護者から何とかしてほしいという意見があるか。

#### ○その他

- ・学校では子どもの事をしっかり考えていると聞いた。先生方の意見を聞く機会はあるのか。色々な規模の学校を見てきているので是非聞いてほしい。
- ・子供の意見ということで、子供会に話を聞いてみようと思ったことがあるが、子供は経験が少ない中で善悪の判断が偏ると思ったので、聞かなかつた。学校の存続についての意見について子供に聞くのは難しいと思う。
- ・自分は湖東小学校の分校に通った最後の児童。他を知らなかつたからかもしれないが、分校の学校生活はよかつた。小さい学校が悪いということではないと思う。現状と将来を見たときに、湖東小学校の児童にとって問題点・課題点はなにかを考え、「何かを変えなくてはいけない」ではなく、不足しているものがあれば足してあげればよいのでは。他の地域では、地域で子ども達を育てていくとあったが、30~40代の保護者はどのように考えているのかが見えなかつた。今の保護者やこれから保護者になる人たちの考え方とすり合わせていければよいと思う。
- ・若い世代に実施するアンケートも考えてほしい。
- ・栃木県壬生町では、小規模小学校に力を入れている町で、学校の選択制や小規模特認校を取り入れている。どういう環境が良いか、地域に必要なかを地域で真剣に考えていく必要がある。

○再編について

- ・子どもが減っている中、永明小学校が新築されたので、北山小は規模が小さいなりに建て替えてほしい。将来を見据えるなら、学校の規模ではなく不登校の問題を見据えたほうが良いのではないか。
- ・複式学級を避けたいという考えは、市の考えがあるということではないのか。
- ・何を目指すのかというものを市で持ち、それをたたき台としてほしい。ゼロから教育環境を考えるというなら、バイアスかかるような示し方をしないでほしい（男女比・複式学級の教員のスキル等）。難しいからあきらめるではなく、どうやったら乗り越えられるのかという見方で進めたい。
- ・市が独自で教員を雇用する方法はないのか。可能性があるなら小規模を維持するという方向も考えてほしい。
- ・スケジュールをもう少し詳細に教えてほしい。地域対話に参加した人は約200人で、10年20年先の児童の状態を見たときに、地域が何を望んでいるのかがまとまっているのに市が意見をまとめるのは難しいと思う。他市町村も、2年や3年で話し合いが着いたわけではない。住民の意見を聞き、どのような小学校を残していくべきかを考えてもらえる検討委員会を作ってほしい。初めて地域対話に来た人に、この資料だけで個人の意見を述べるのは難しいので、もっと丁寧に情報を出して、考える機会を与えてほしい。
- ・素案検討委員会を見てきている人は、大変な危機感をもってきている。この会の前段で、素案検討委員会とは違うと説明することで、議論が原点からのスタートになったと思う。
- ・親世代に浸透しきってないと感じる。教室が見るからに人数少ないというぐらいにならないと危機感をいただけないと思う。少し長い目で説明会なり地域の意向を聞いてゆっくり進めてもらえたと思う。
- ・今日は、丁寧な議論をしてほしいという方が多いと感じた。教育の質について。小規模校大規模校で教育の質の差はないといわれている。複式学級が望ましくない、6年後50人になるといわれると統合しかないと思う。どの地域においても、その地域にとって何がいいという議論がほとんどされていない。教育の質を議論にするなら、PTAや学校場合によっては区長会を通してもっと人を集めて丁寧な議論をしてほしい。3月に方向付けしたいというのは無理がある。
- ・子供の人数が減っているというが、社会増が含まれていないので、過去の出生数と社会増減を含めた資料を出してほしい。アンケートの際に、児童数の減少と財政難のことだけで聞かず色々なデータを出してほしい。

○人数について

- ・複式学級を経験した・卒業したという方から、よい学びができなかつたという声やデータを集めているか。他県の国立大学教育学部付属小中学校の複式学級を維持していて質が上がると聞いたことがある。単式学級のほうが、よい学びができる等データなりを示さないと、知らない人は簡単に信じてしまう。
- ・話し合いをする中で、仕方ないという考え方をタブーにしたい。諦めなくていいものであれば、それを大事にしたい。少人数のクラスで手厚く見てくれている教育環境は素敵だと思う。人間は人間関係で社会的に成り立っているので、いじめみたいなものも起こるのが普通で、いじめがあったときにうまく収めることができる学校があればそっちのほうが素敵だと思う。

○地域との関りについて

- ・他の地域で明確に学校を残したいや統合したいという地域が泉野地区以外であったか。地域がひとまとまりで意見を出すのは非常に難しいと思う。来ていない人の意見を聞けない状況で、どのようにゴールに向かっていくのかを考えているか。
- ・地域と学校の結びつきが強固にならないという部分があり、その地域の大切さや地域と関りをもてる仕組みづ

くりをして、巻き込んでいってほしい。

- ・多くの人を集めたいならば、永明小ができる前に、学校がなくなるかもしれないという形で提示すると人が集まつたのかなと思う。これからは、異学年・同学年で教えあう、場合によっては地域の大人が入って教えあうことをしていかなくてはならないと思う。小学校は地縁組織である。地縁組織は病院と小学校がなくなると過疎化に耐えられなくなるため、統合することで財政的にコストダウンが図れるのかきちんと検討をしてほしい。
- ・子育ての環境として、学校のない地域には人は入ってこないので、学校はなくしてはいけないと思うが、外から人を呼ぶことを市に任せてばかりだけでなく、そこに住んでいる人が良いという所を地域でアピールをして努力をしていく必要がある。

#### ○その他

- ・広報ちのや保育園の電子通知でも貰っていたので、連絡は十分だと思うが、参加が難しかったり、意見を言うのが抵抗あつたりするのだと思う。ここに住んで育ってきてるので良い環境だと思うが、人が減っているのが目に見えているので、統合をするのはしょうがない。けれども、小学校がになると子供を育てにくくなってしまうのではと心配。ここで子育てしたいと思える環境を作る政策をしてもらえたと思った。保護者は集まりにくいので、参観日や保護者の総会にきて説明してもらうのが良いのかと思う。

○学校の再編について

- ・児童数の推移 R13 年度と R7 年度。中大塩が今 3 つの学区に分かれているが、例えば一つの学校に通うとした場合、他の学校のクラス数が減り複式学級となるということでよいか。
- ・これからの中大塩の学校の在り方の意味は何か。学校教育のあり方を考えるか、学校施設のあり方を考えるのか。地域対話では、人数が減ってこれでよいのかという議論ではなく、箱（学校施設）が残るか残らないかという議論が多いのでは。
- ・中大塩は通学区の見直しをしてほしい。過去にも 3 回区を上げて検討をしてきたが、住民のコミュニティを考えた時に、地区子供会は揃えた方が良いので、米沢小学校にまとめ上げてほしい。
- ・子供が 2 学級から 1 学級になったが、子どもも保護者もそわそわした。中学校に進学する時に多くの人数に馴染めないことがある。今後、5 人のクラスから中学に進学した時、小学校の 4 倍以上のクラスになった時に子供たちの不安や環境に慣れる負担が大きいと私が子ども達を見て感じている。今の子たちは繊細で、少しのことで学校に行かれなくなってしまうので、最初からある程度の人数で生活をする、あるいは大人数で生活する機会を増やしてあげる。学校を残すことも大事だが、これから高校・社会に出て大きな世界や違う世代の人と係わる段階を踏むとき、今よりさらにリスクがあると考えてもらいたい。

○地域対話について

- ・開催日程について。中大塩コミュニティセンターの大ホールは設備が整わないといわれたが、自分たちの避難場所でもあるがインターネット環境がないのか。人数が 20 名以下のところもあったか。
- ・20 代くらいの若い人の意見を聞かなくてはいけないと思う。若い人の意見が聞けるようにしてほしい。
- ・中大塩地区の人が集まりやすい場所と時間にしてほしい。
- ・地域対話に参加して、考えをまとめたので要望書を出したい。内容は、開催方法を十分検討する事。9 小学校を維持させる方向で検討すること。今後の進め方について、地区コミュニティ運営協議会の中に小学校区ごとに「小学校のあり方検討委員会」を設置し、市としても検討機関を設置。学校のあり方と地域存続のあり方と一緒に考えていく事が大事であり、今以上に情報を市民に提示し、寄り添った対応を要望するとともに、十分検討できる期間を取るよう配慮をしてほしい。

○まちづくりについて

- ・少子化対応をもっと柔軟にしないといけないと思う（1 学級あたりの人数、日本は諸外国に比べて多い）。大きな改革が必要だと感じている。市が県や国を突き上げたほうが良い。また、学校の在り方は学校教育課だけを考える問題ではなく、旧町村の担ってきた役割を大切にして、集落を守っていく茅野市全体で考えていくことが必要だと思う。
- ・地域に小学校が無くなると集落から子供たちが減っていく。過疎化が進み地域を守れないと思う。学校は残すべきだと思う。学校の次は保育園が無くなるのではないかと心配する。
- ・茅野市のホームページに中学校の数に合わせて小学校を 4 校にしていくと見たが、今までの経過とあわせて位置づけを教えてほしい。市は、小学校統廃合する方向性を視野に入れて市民の意見を聞いているのではないか。小学校が地域からなくなると、地域が壊れると思うので、地域づくりの一環として考えていかなければいけないと思う。地域の中で、統合を進めてほしいという意見が出ているのか。
- ・笛原分校だった子はスクールバスのバス停まで親が送り迎えをしている。そのようなところは子育て世代からしたら魅力がない。

- ・中大塩は3つの学区に通っているが、すぐPTA役員が回ってくる、働いている人も多いが、地域の役も役がすぐ回ってくる。学校の問題を継起に中大塩地区の課題も考えていきたい。
- ・地域を残すことが住民にとって大きいので、小学校は現状維持で残してほしい。市全体で検討し、地域住民も含めて活性化していきたい。